



概要報告//ナース★アクション議員懇談会～高等教育無償化を求めて～

日時 **2023年10月17日(火) 17時15分～18時15分** Zoom ミーティング

対象 全日本民医連職員育成部担当役員・部員、看護理事、看護委員、看護学生委員
看護学校副校長・事務長

県連看護委員長・看護学生委員長、ナースアクションご担当者

議員 日本共産党・吉良よし子参議院議員(参院文教科学委員、党青年・学生委員会責任者)
同 倉林明子参議院議員(参院厚生労働委員、党副委員長・ジェンダー平等委員会責任者)

次第 進行 全日本民医連常駐理事 宮川喜与美 氏

開会あいさつ 全日本民医連副会長 川上和美 氏 (熊本/社会医療法人芳和会看護介護部長)

高等教育無償化を巡る情勢報告 吉良よし子参議院議員

2023年度全国看護学生アンケート調査の報告

全日本民医連理事 藤牧和恵 氏(石川勤労者医療協会看護部長)

現場からの報告

①北海道/勤医協札幌看護専門学校 田沢事務長

②京都/近畿高等看護専門学校 山口副学校長

③山梨/共立高等看護学院 浅川事務長

④福岡/健和看護学院 手島事務長

議員とのやり取り・参加者からの発言など

報告を受けて倉林議員、吉良議員より一言

閉会あいさつ 全日本民医連理事 藤牧和恵 氏

【川上副会長の開会あいさつ】

ナースアクションの秋以降の取り組みとして、「すべての看護職員の処遇改善」に加え「高等教育無償化を求める」アクションについても今回提起しました。民医連では2020年9月に第1回目のコロナ禍における看護学生の実態調査を実施し、以降、毎年アンケート調査を行い、学校の教職員とともに学生自らが声をあげ、コロナ緊急補助金や追試の問題、学費無償化に向けた要請行動を行ってきました。『どんな大変な状況にあっても、日本の未来に希望をもちたい、正しいことを正しいと言える看護師になりたい。誰もが人間らしく暮らせる社会をつくるため、仲間とともに基本的な人権を護っていく看護師になりたい』そう真っ直ぐに語る学生の姿に私たちは励まされ勇気をもらい、今回の処遇改善も含めたナースアクションの行動にもつながっていったのです。民医連新聞(10月16日)の6面では、生活保護裁判「長洲事件」についても掲載されています。ここでも、お金の心配なく看護師になりたいという願いと、学ぶ権利の保障をもとめ、熊本県民医連は、ナースアクションとして裁判支援を行っています。是非読んでいただければと思います。本日は、学生の実態や情勢をしっかりとつかみ・学び、さらなるアクションへ一歩踏み出す契機となることを期待します。

【吉良よし子参議院議員による高等教育無償化を巡る情勢報告】

学費が高すぎるというのは全ての学生の切実な声だと思います。日本共産党は6月に高等教育無償化に向けた政策を発表しましたが、この政策を今、全国の大学の門前で宣伝して学生の声を寄せてもらっています。先日早稲田大学門前で一番多く寄せられた声は「学費が高すぎて親に申し訳ない」というものでした。一生懸命勉強して合格した学生にこのような想いをさせてしまっていると

というのが日本の高すぎる学費の問題です。異常だと思います。倉林議員の時代は看護学校は年間7万円程度の学費だったそうですが、現在、看護大学は4年間で700万円というわけですから、とんでもない勢いで値上がりし続けているのです。政府が高等教育にお金を出していないというのが最大の原因ですし、安倍政権以降文科予算は年々減り続ける一方で軍事費はうなぎのぼりです。その不均衡が学生の学費の負担として回ってきているわけです。学費が高くてこの学部を諦めた、進学すら諦めた、弟や妹の為に自分は身を引いた、そんな声がたくさん寄せられています。若い人たちの夢を潰してしまっているわけです。もうひとつが奨学金の問題です。皆さんの声でようやく給付型がつくられましたが、日本の奨学金のほとんどは貸与型すなわち学生ローンです。我が党の田村智子参議院議員が国会で質問した所、奨学金の総額はなんと9.5兆円。約10兆円もの借金をこの国は学生に背負わせているのです。これでは将来に希望など持てませんよね。

この現状をどう打開していくのかという事で、冒頭お話しした日本共産党の政策がこちらです。①学費半額というのは、これ以上の学費値上げにSTOPをかけて高卒以降の全ての学校の学費を半額に値下げさせるという内容です。そして日本にしかない入学金を廃止させる。②75万人というのは現在奨学金を受けている学生の半数にあたりますので、半分は学生ローンでは無い給付型に切り替えるという内容です。大企業優遇税制や莫大に膨れ上がり続けている内部留保に課税する事で年間22兆円の財源が生まれますので、そのうちの2兆円を充当すれば実現します。③奨学金返済の半額をカットするには10兆円の半分の5兆円一回だけ使えば出来ます。軍事費43兆円の為に積立基金3.3兆円とか言っているわけですが、それらをこちらに回せば出来るわけです。



これがわたしたちの主張ですが、反響も大きいですしみんなで声を上げれば実現できると思っています。この間学生の皆さんの声で政治は動いてきたのです。対象は7%だけかもしれませんが給付型奨学金を創らせたというのは大きな成果ですし、コロナ禍で学生緊急給付金を出させたり、大学の学費減免の為に予算を7億円から700億円に100倍に増やしてきたりと目の前でわたしも一緒に見てきました。もちろん岸田内閣そのものも変えなければいけません。「異次元の少子化対策」と言うのであれば、高学費と奨学金という借金にこそ手を付けるべきだと思います。お金の心配なく看護師になりたいという皆さんの声を聴く政府に、来るべき総選挙で変えていきたいと思いません。

【「2023年度全国看護学生アンケート調査」の報告】別紙有り

経済的基盤がぜい弱な中で、着る物や食べる物を削って学費に充当しながら、必死に看護職を目指そうとしている姿が浮き彫りになった。8割の看護学生が奨学金返済について不安を感じており、しかも増加傾向にあることが判った。奨学金を受けていない場合でも、その約半数は、必要だったにもかかわらず、保証人がいないなど要件が満たせず申請に至っていなかった。すなわち奨学金も受けられない、更に困窮している学生の存在がうかがえた。看護職の資格を目指すという目的の為に、ほぼフルタイムのアルバイトが必須となっているが、そのことが学業に大きな支障となっていた。日本の高学費は支払い能力を超え、看護職養成の大きな障害となっていたこと等、4年目となるアンケート結果から、看護学生の実態は更に厳しくなっている事が別紙報告されました。

【現場からの報告】

①北海道/勤医協札幌看護専門学校 田沢事務長

日本で看護師を目指すためにはたくさんのお金が必要です。本校の所在する札幌圏でも私立大学なら年間150万円、専門学校でも75万円(勤医協は56万円)です。しかもこれは授業料のみですから、教科書代や実習交通費を含めると大学ならば4年間で700万円以上は必要です。その為多くの学生が奨学金を借りています。日本学生支援機構によると、貸与型の利息は上限の3%で計算されて学生に通知されており、卒業後に確定します。本校でも最高額の12万円を借りている学生もあり、3年間で432万円に利息が付いて581万円を20年かけて返済しなければならず、奨学金が学生の人生を縛るものになってしまっています。更に二箇所、三箇所から借りている学生もおります。

②京都/近畿高等看護専門学校 山口副学校長

コロナの5類化以降も、医療機関での感染対策はほとんど変わらず、学生の実習前のアルバイトの禁止は続いています。3年前は、全学生のアルバイトを禁止したことで、親の休業や病気などで、家計が厳しくなる学生がでてきました。痩せてきた学生に声をかけると、20の水だけで過していたこと、親からの仕送りがなく、学費が払えず、学校へ泣いて電話をしてきた学生もいました。昨年は、物価高騰の影響も加わり、授業料納入を遅らせてほしいといった相談が増加しています。昨年(2022年)4月の知事選挙の際、学生自治会がおこなったシール投票では、「緊急の現金給付」や「学費の半額・無償化」が多く選ばれました。また、「4人姉妹で生理用品が高いので配給してほしい」「食糧支援」等を希望する声が多くあり、地域の協力を得たり、コロナ禍における国や府の補助金や助成金を活用して、生活用品や米の配給を行ってきました。一人暮らしの学生からは「2週間ぶりに米が食べられる」「一ヶ月買い物に行かなくていい」など、切り詰めた生活がうかがえました。高等教育修学支援新制度の適用とならない(外れる)、特に保障が届きにくい中所得者、制度のはざまにいる人たちへの支援も必要だと考えます。

③山梨/共立高等看護学院 浅川事務長

給付型奨学金には3月には学業(成績)に関するもの、9月には家計(世帯年収)に関するものの、年2回の適格認定があります。本校在校生129名の内22名が給付型を受けていますが9月の適格認定で4名が休止となってしまいました。その内の一事例ですが、ひとり親、4人兄弟の上二人が本校在学中、3番目が今年高校受験、一番下は4歳という家族構成のご家庭です。年収300万円以下でしたので、2/3免除(第Ⅱ区分)でしたが、世帯年収での認定の為、学生がアルバイトを頑張って家計を支えたために休止に。授業料年間260千円/人の減免+毎月23千円/人の奨学金の受け取りができなくなる為二人で年間1,000千円近い支援がなくなります。1年間復活の機会はありません。留年者は進級しても給付型奨学金の復活はありません。家計が厳しくても頑張って看護師になろうという気持ちがあっても、途中で給付を絶たれてしまうと、金銭的な理由から学業を断念せざるを得ないケースも出てくるのではないかと懸念しています。

④福岡/健和看護学院 手島事務長

2020年、21年には「学生緊急給付金」が給付されましたが、22年度は私たちの運動は届かず、現金支給ではなく物価高に対する経済対策支援事業となり、学生等に対して学生生活を送るための食費や就学に必要な消耗品の費用を上限100万円まで支援するものというものでした。当学院では米やスパゲッティ、レトルト食品などの現物支給を行いました。「娘と美味しくいただきます。そして立派な看護師になります」「お米大切に食べます」「おかげでお腹いっぱい食べることが出

来て幸せです」学生の感想の一部です。23年度も物価高騰は継続しています。学生への支援を継続していただきたいと思います。当学院では何かしらの奨学金や教育訓練給付金を受けている学生が77%となっていますが、中には600万円以上の返済義務のある奨学金を受けていた学生が2名卒業していききました。本当に返済できるのだろうか心配になります。また、学生の本業は学業です。バイトで疲れていっぱいいっぱいのところで授業を受けています。看護学生の場合は実習中にはバイトも出来ません。学生が継続的な支援を受けられて、学生生活が豊かなものとなるよう、給付型奨学金の拡充と要件緩和をお願いしたいと思います。

【報告を受けて議員より一言】

◎倉林明子参議院議員

家計全体の収入が悪化しているうえに、物価高がのしかかっているという実態。そしてそうした家計環境にある方が看護学生を志向しているということかなと思いました。看護学生に対しては支援の必要性の緊急度が切実に伝わってくる報告で、涙が出ます。いずれにしても学ぶ環境があまりにも酷いですよね。就職してから40歳過ぎまで返済にかかるわけですから、結婚なんて出来ませんよ。この深刻な内容を政府の役人にもよく伝え、この間民医連の皆さんが繋がりを拡げて来た与党議員にも伝える為に、ロビイングと、署名で更に迫って欲しいと思います。人手不足、超多忙、低賃金の看護現場で借金まで返せるのか、ということ考えると働く環境改善も一緒にやらないといけないと思います。まだまだ実効性には乏しいけれども、3年間の運動の中で看護師の働く環境の変化が見えて来た。ハラスメント対策でも現場の声が盛り込まれた。変えてきたことに確信を持って、更に一緒に頑張っていきましょう。

◎吉良よし子参議院議員

看護学生さんは、全国平均よりも高い奨学金貸与率なのだということや、食糧支援が無ければ食べる物にも困ってしまうという実態が良く分かりました。給付型奨学金の問題が出されていましたが、本当に深刻です。学校側には機関要件、学生側には成績要件が求められますが、成績は2年低下したら停止など、停止・休止になる学生が年間なんと1万8千人も居るのです。わたしがお話しを伺った学生さんは、母子家庭で弟に障がいがあり、母が緊急入院したために、弟の介護で成績低下してしまい停止になってしまった。数字だけで実態を見ない認定はおかしいと思います。機関要件も厳格化の方向が検討されており、440校が新たに対象外となると試算されています。要件の緩和こそ必要です。現場の実態をどんどん伝えて、政治の大元から変えていきましょう。

【藤牧理事の閉会あいさつ】

吉良議員、倉林議員と懇談することができ現場の実態を共有することができました。予算は軍事費を削ればある！というお話が本当にそうだと思います。アンケート結果からは学生の心からの願いが伝わってきますし、食費を削って頑張っているという胸が痛くなる報告もありました。学生達が安心して勉強することができる、看護師への道をあきらめないですむような制度にしていかなければと思います。看護学生の奨学金返還については、貸与型は就職後の人生を縛るものとなっているし、給付型は対象が狭くて要件が厳しい、狭間の学生もいることなどが実態としてわかりました。学生の声が政治を動かす、看護師の声が運動を拡げてきたように今日のこの懇談会を力に、学生とともに各地でのナースアクションを元気いっぱい取り組んでいきましょう！